

イノシシの被害対策について

イノシシの基礎知識

イノシシの生態と行動

① 食べ物

◇イノシシの胃の構造は、人間やサルと同じ構造で、植物中心の雑食性です。

◇農作物は何でも食べます。イノシシにとって農作物は最高の食べ物になります。

◇辛いもの、苦いものはあまり食べません。



② 行動

(活動形態) 成獣の雄は単独で活動します。

成獣の雌は子供とグループを形成して活動します。

1才の子供は、兄弟姉妹で小グループを形成して活動します。

イノシシの成獣は、単独型の社会を形成して群れを作りません。

(行動時間帯) 日中は林の中で生息し、夜中に活動しますが、人間の影響が少ない地域では昼間も活動します。元々は昼行性の動物ですが、日中は人間がいるので出没しないで、夜間に行動するようになりました。

(行動域) イノシシは、本来、平野の生き物ですが、人間が平地の部分を農地などに利用したため、生息場所を追われて、現在は山林内に生息しています。耕作放棄など人間が平地の部分を利用しなくなったことから、平地の部分に出没するようになってきました。活動範囲は意外に狭く、特に農作物を常に食害する個体は、被害農地の近くに潜伏する傾向があります。

③ 繁殖

◇早い性成熟で、2歳で出産できるようになる。

◇基本的に年1回出産(春～初夏)。

◇妊娠率はほぼ100%、多い産子数で4～5頭出産する。

◇1才までに約50%が死亡するが、毎年2頭の子供を残します。

◇数のコントロールはシカやサルに比べて困難です。

イノシシの被害対策

野生動物による被害対策の基本は3つで、①有害捕獲等による生息密度管理、②防護柵等による被害管理、③集落内の放棄果樹対策などの生息地管理などが被害対策のポイントとなります。

① 生息密度管理

高い繁殖力を持っているので、捕獲だけで被害を防止することはできません。被害管理と生息地管理を連携させて、対策を講じることが重要です。

また、有害捕獲で猟友会が山の奥のイノシシを捕獲しますが、農作物に被害を出すイノシシは、農地の近くに生息していることから、農地周辺で捕獲檻により捕獲をお勧めします。

◇被害農地の近くに潜伏するイノシシを捕獲すると効果が大きくなります。

◇広域捕獲は被害低減のために必要ですが、未生息地域への拡散に注意して下さい。

② 被害管理

被害管理としては、イノシシ被害が発生する地区では、侵入防止柵等によって農地への侵入を防ぐ必要があります。

侵入防止柵の設置に当たっては、イノシシの特性を考慮して作成された柵を選んで、適正に設置するとともに、設置後の見廻りにより柵の維持管理を適切に行ってください。

鳥獣対策として、ロケット花火・電動エアガン・イヌなどによる追い払いで効果を上げていますが、夜中に活動するイノシシの場合、こうした方法での追い払いが出来ないことから追い払いは難しいようです。

イノシシの侵入を防止する忌避剤などが販売されていますが、一定期間は効果があるものの長期間の効果は無いようなので、使用に当たっては注意が必要です。

③ 生息地管理

イノシシは、樹木が密生した森林や竹林、藪化している耕作放棄地などが農地の近くにあると、身を隠しながら近づいて警戒することなく、農地や集落に出没します。

このため、集落や農地周辺の山林や耕作放棄地は、伐採や刈り払いを行うことによって緩衝帯を作り、イノシシの隠れ場や通り道を無くす取り組みを行ってください。

また、イノシシを農地におびき寄せる原因となる集落内の餌、具体的には生ゴミや未収穫野菜の放置などを止めて、イノシシに食べられないようにコンポストに処理したり農地に鋤き込むなどの取り組みを行いましょう。